

# Freude

vol. 14-14 2018. 6. 6. wed

6月だよ～  
(本週管理しよ～)

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626  
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B  
ホームページ <http://www.osakafreude.com>  
メールアドレス [info@osakafreude.com](mailto:info@osakafreude.com)

## 6月23日(土)には(たぶん)全曲通すよ～

5/30はK257, K337を 譜読みが終わっている Benedictusまで通してうたってみましたね～。

途中で行方不明になったパートあり、こけたパートあり、事故多発・・・がんばれ！

一方、全体でうたと、発見もあったのでは？ 自分の音に必死のところは余裕もないですが、それなりに歌えているところなど、他パートも聴くことができると、音楽が追っかけているのを感じたり「へ～、ここでバスがかっこいいんだ～！」と発見したり。また、自分がどこができていないのか、自分自身のテーマも見つかったのでは？

ぜひ、そこを、それぞれ、気かけながら、自習しましょうね～！

ご存じのとおり6月の23 & 24は強化練習ですが、

23が全体練習、24が分かれて練習です。

6月は、6 & 13の分かれて練習で譜読みの残り

(Agnus Dei) を読んでしまっ、

6月20日の全体練習で、譜読みした部分を合わせて練習

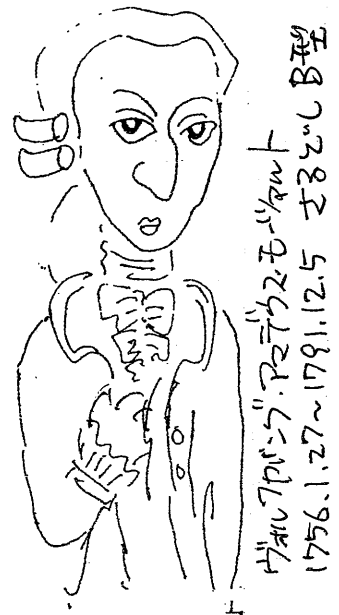
(あくまで、筆者の予想です)

ということは、、6月23日(土)は、ぜ～んぶ通すぞ～～～

そのとき、ちゃんと音楽を感じて発見したい！よね？^^;

ということは、ミナサン！これまでに譜読みしたところ、

それぞれ自分のものにしておけるように！がんばろー



6/13(水)	6/20(水)	6/23(土)	6/24(日)
18:30～	18:30～	13:15～	13:15～
堀江PHT	堀江PHT	滝田PHT (真田源太郎)	比花PHT

モーツァルトさんにはずっとお世話になってきた、大阪のフロイデ合唱団です m(\_\_\_\_)m

●1986年夏モーツァルト「レクイエム」外山雄三・大阪フィル・フェス

→大阪新音と分かれて、最初の夏公演。1963年の創立以来、初めてのモーツァルト。前年に映画「アマデウス」が公開されたこともあり、フェスに立ち見が出ました！団員も300人超えの時代。

●1988年夏モーツァルト「戴冠式ミサ」外山雄三・大阪フィル・フェス

→「外山雄三・林光オリジナル曲“この八月に”」がメインの演奏会。平和を願うメッセージ性の高い曲との組合せとして、明るい「戴冠式ミサ」は好評でした。Credoのコトバに大手こずり、当時合唱指揮者の亀井先生熱血指導。メッセージ曲ではどうしても団員が減りますが、それでも、200名は居ました。

●1990年夏モーツァルト「レクイエム」山下一史・大阪フィル・フェス

→この年は、外山先生がお休み、合唱指揮の亀井先生もお休み、合唱指揮は守屋博之先生でした。

●1996年夏モーツァルト「レクイエム（モーツァルト作曲部分）」亀井正比古・大阪フィル・フェス

→1995年夏にメッセージ性の高い曲を演奏して180名まで団員が少なくなりましたが、その次の「夏」やはり、モーツァルトファンは多い！200名超えに戻りました。このときは、モーツァルトがスケッチだけでも残している部分、だけを演奏したい、として、ジュスマイヤー単独作曲部分は、演奏しませんでした。休憩をはさんで、ブルックナー「テ・デウム」を元気に明るく演奏しました。

●2004年夏モーツァルト「レクイエム（モーツァルト作曲部分）」外山雄三・大阪フィル・フェス

→フォーレ「レクイエム」とモーツァルト「レクイエム」のモーツァルト作曲部分、でのコンサート。ただ、お客様や団員からは「ジュスマイヤー部分含め“レクイエム”としての全曲を」という声も多かったです、、、。

●2006年夏モーツァルト「戴冠式ミサ」亀井正比古・関西フィル・フェス

→フロイデで初めてシューベルトを取り上げました（ミサ5番）。明るく軽やかな音楽ということで、「戴冠式ミサ」が選曲されました。そして、これが旧フェスでの最後の演奏会となりました。

●2012年10月モーツァルト「レクイエム」亀井正比古・関西フィル・シンフォニー

→「大阪フロイデ」第2弾。フロイデ時代は、正直なところ「人数の強み」でこなして来がちだった演奏ですが大阪フロイデになってから、ひとりひとりが日々スキルアップしながら、緻密な演奏にとりくむ（とりくまざるを得ない！？）ことになりました。先生方の大奮闘と団員の必死のがんばりで、「ほかには無い合唱団」に向かって歩み始めました。

●2015年5月モーツァルト「戴冠式ミサ」亀井正比古・大阪チェンバー・いずみホール

→前年の新フェスでの演奏会「ドヴォルザーク“スタバト・マーテル”」。「フェス狙い」で集まったたくさんの団員が、フェス演奏会が終わると、さーっと辞めてしまい、「さあ、どこに向かって歩くか」と、けっこう悩みは深く。そして、先生方と相談して進めたのが「いずみホール&大阪チェンバー」とのコンサート。これは、その後の大阪フロイデの音楽づくりを方向付けることとなります。その記念すべき最初のコンサート。Mハイドン「レクイエム」とともに、緻密で丁寧な練習に裏付けられた音楽が、いずみホールに響きました。

●2016年2月モーツァルト「ミサk v 275」「レクイエム」亀井正比古・大阪チェンバー・いずみホール

→いずみホールの音響で「モツレクをやってみたい」がかなった演奏会でした。ザルツブルク時代のミサと遺作のレクイエム、団員ひとりひとりが、丁寧に自分の責任を果たす演奏となりました。ヨーロッパの教会のような響きのいずみホールにモーツァルトが美しく響きました。

と、なにかと「エポック」になるときに、お世話になっている「モーツァルト」です。今回も我らにチカラを与えたまえ！